



# たいしも通信

つい先日まで連日30℃超、いつまで夏が続くのやら、などと思っていたら、いつの間にか11月で今年も終わろうとしています。そのような中、この「たいしも通信」も50回を迎えることができ、半強制的とはいえ、読者がいてくださることに感謝です。さて今回は戦跡シリーズから一旦離れ、最近の防衛関連ニュースとして、海南島事件についてお送りしたいと思います(戦跡ネタが尽きたと言えない事もない)。

## ◆キューバ危機以来!?

皆さんはキューバ危機をご存知でしょうか?これは1962年10~11月にかけて、ソ連が米国の目と鼻の先であるキューバに核ミサイル基地を建設していることが発覚、米国がカリブ海でキューバに対して海上臨検を実施、米ソ間の緊張が一気に高まり、核戦争寸前にまで達した一連の出来事のことです。海南島事件はそこまではないにしろ、米中の軍用機衝突により、米中間の緊張が高まった事件です。

## ◆海南島事件とは

事件は2001年4月に海南島付近の南シナ海上空で、米国と中国の軍用機が空中衝突したものです。中国側の戦闘機JHは2つに折れて墜落し、パイロットは行方不明。米国側の電子偵察機EPも機体各部の損傷に加えプロペラ1つを失い、中国の海南島飛行場に緊急着陸し、搭乗員24名が中国に身柄を拘束され、この件により、一時的に米中関係の軍事的緊張が高まることとなりました。この事件について、自分は同じような任務に従事していたため、とても注意深く推移を見守っていた記憶があります。

## ◆なぜ今、海南島事件なのか

キューバ危機は昭和32年、海南島事件も平成13年と10年以上

も前の話となりますが、なぜ今その話をするのかというと、実は今年の10月終わりに気になる記事を見つけたからです。それは、米南西部のアリゾナ州にあるピマ航空宇宙博物館に、新しい収蔵機が到着したとSNSで報告があり、これこそがEP-3E シリアルナンバー166511、海南島事件の当該機だったのです。

EP-3EはP-3型哨戒機の派生機で、P-3Cなら数百機を保有する米国にあっても、10数機程度しかないとみられており、何よりもその性能や任務は秘中の秘で、それが博物館に展示されるのは異例のことだと言えます。

## ◆海南島事件からの考察

皆さんはどの国の軍隊が怖いですか? 怖いという意味にもよりますが、自分は指揮・統率が取れていない軍隊だと考えます。本件は鈍重な大型機の直前を戦闘機が無理に横切って接触したと考えるのが一般的で、問題はその原因がパイロットの勝手な行為なのか、上層部がやれと命じたのか、という点です。

また、当時自分が特に関心を持っていたとはいえ、周囲を見ると、逆に日本人の関心の低さに率直に驚きました。平成の世にテロでもなく戦争ですらない状況下で、中国軍に拘束された搭乗員の拷問に近い処遇の記録(パイロットのインタビュー記事あり)等、かなり怖い事が、日本のすぐ近くで起こっているのに対し、日本は驚くべき無関心だと感じました。

## ▼編集後記▲▲

緊急着陸後に人民解放軍に拘束され、さすがに殴る蹴るの暴行はなかったものの、約2週間にわたって睡眠させずに尋問するといった内容等がインタビュー記事にありましたが、民間の会社員に対しても、そのような事が行われていた事があるようですね。例によつて、内容に関する責任は全て支部長にあり、特に規則等に定めてあるもの以外は私の個人的見解が色濃く反映されていますので、ご意見等ございましたら遠慮なくお知らせ下さい。